

11/6 第25回しらかわ音楽の祭典
●コミネス大ホール

講師に東京混声合唱団参与でコントラバス奏者の村上満志氏を迎え、市内の小・中学校、高校、市コミネス交響楽団など26団体による合唱・合奏が披露されました。

コロナ禍の中、観客の心を癒す祭典となりました。



11/13 今井珠泉氏に名誉市民称号を贈呈
●ホテル椿山荘東京

長年にわたり日本画の分野で輝かしい功績を残され、本市の文化振興に大きく貢献されるとともに「しらかわ大使」として市政進展にご助力いただきました今井珠泉氏に対し、本市初となる名誉市民の称号を贈呈しました。



10/26 「ラ・クリエーションプラス」オープン
●産業プラザ人材育成センター内

コロナ禍により地方への移住や多様な働き方を希望する方のために、サテライトオフィスやワーキングスペース、動画制作に活用できるスタジオやミニキッチン等を備えた施設がオープンしました。地方分散の受け皿となるテレワーク支援や二地域居住の促進に取り組むとともに、地元企業との交流の場として活用を図ります。



11/1 空家の媒介等に関する協定締結式
●本庁舎第二応接室

市は(公社)全日本不動産協会福島県本部と、空家の媒介等に関する協定を締結しました。

この協定は「白河市空家バンク」に登録されている所有者と、利活用希望者の仲介などの業務に参画するものです。これにより、先に締結している(公社)福島県宅地建物取引業協会白河支部とともに仲介などの業務を担います。



11/14 秋を満喫！南湖公園魅力発見ツアー＆南湖フェスティバル
●南湖公園

晩秋の南湖公園で「南湖十七景」や森林公園を巡るツアーが開催され、参加者は歴史や自然を学びながら、南湖の魅力を再発見しました。

また、湖畔では紙芝居・バルーンパフォーマンス・移動図書館・絵画教室などが催されたほか、松平定信公が建てた茶室「共楽亭」の一般公開も行われ、多くの人でにぎわいました。



11/14 第27回中山義秀文学賞決定
●新白信ビルイベントホール

4月に応募のあった32作品のうち、第一次・第二次選考会を経て選ばれた3作品について、中村彰彦氏、澤田瞳子氏、伊東潤氏、清原康正氏の4人の最終選考委員による公開選考会が開催されました。選考の結果、芸に心血を注ぐ「傾奇者」たちの凄まじい執念を描いた『化け者心中』(著者／蟬谷めぐ美)に決定しました。



10/17 ゼロカーボンシティ宣言式典
●市立図書館りぶらん

本市は、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとすることを目指し「ゼロ・カーボンチャレンジしらかわ」を宣言しました。

目標達成に向けて、市民・事業者および市がそれぞれの役割に応じた行動を協働で実践し、脱炭素社会の実現(ゼロカーボンシティ)のための取り組みを推進していきます。



▲小学生による「ぼくたち、わたしたち」の誓い



▲環境ポスターコンクールの受賞者

白河市「ゼロカーボンシティ宣言」

～ ゼロ・カーボンチャレンジ しらかわ ～

近年、世界の各地で集中豪雨の発生や台風の大規模化による風水害が頻発し、災害は激甚化の一途を辿っています。また、気温上昇による熱中症警戒アラートの発表や自然生態系への影響など、気候変動問題は私達の生活に大きな脅威を及ぼしています。

原因の一つとして挙げられるのが地球温暖化であり、その対策として、2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求する」という目標が掲げられました。これを達成するためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要です。

私たちは、この世界の危機的状況を認識し、気候変動対策を喫緊の課題として位置づけ、積極的に取り組まなければなりません。

こうしたことから、本市は、美しい里山、清らかな水、そして澄みわたる空気など、かけがえのない豊かな自然を守り、安心して住み続けられる故郷を良好な状態で次の世代へとつないでいくため、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、市民・事業者・行政が一体となって挑戦することを宣言します。

令和3年10月17日

白河市長 鈴木和夫